

評価項目	総評(意見・改善策)
保育目標について	子どもが主体的に活動できるようなかかわりを心がけた。保育目標を軸にしながらも、個々のありのままの姿を理解すること、その上で必要ななかかわりや援助を導き出していくことを大切に保育を行った。 毎月のクラス会議でクラス全体や個々について振り返りを行い、それを元に次月の目標をたてた。 また、共通認識をもって保育ができるよう常に情報共有や話し合いを行った。
保育について	新型コロナウイルスの影響による活動の制限が全面解除とならない中でも子どもが安心してのびのびと過ごせるよう、保育者間で話し合いながら保育を行った。給食、午睡時はなるべく間隔をあけ固定の位置にすること、登園、降園時の対応をエントランスで1組ずつ行うこと、換気の徹底(CO2濃度測定器を導入し、数値をこまめにチェックして換気を行う・壁掛け扇風機を3台導入し、空気の流れを作る)、保育室内のこまめな消毒等、出来る限りの対応は引き続き行った。子ども一人ひとりの最善の利益を尊重したかかわりを大前提に、安心、安定した園生活を保障し、自らやってみたいと思えるようなかわりや主体的に活動できるような保育を心がけた。
行事について	引き続き新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、各行事の計画を立てた。保護者参加行事については、人数の制限・規模の縮小・体調把握の徹底(行事参加前に検温実施)・保育室内の消毒作業や換気の徹底・参加する職員の人数を減らす等、出来る限りの対応を行った。制限のある中でも子どもが楽しめる行事となるよう、職員一同知恵を絞って考え実施した。また、保護者への案内を早めに行い、仕事の調整等がしやすいよう配慮した。
分掌・体制	常に変化がある現場の中で、その時によっての自分の役割を意識し、声をかけ合いながら行動できていた。指示がなくても自ら考えて行動すること、指示を出される前に提案や質問をすることに関しても更に意識できるようになってきた。保育責任者は指示を出すだけではなく、まずは自分で考えてみるができるような環境を整えること、一人ひとりの思いを汲み取ること、出た意見に関してどんな内容であってもそのままとせずなるべく早く対応すること、どの職員に対してもいつも平等であることを意識してかかわった。
運営	運営責任者との面談、年3回の保育責任者との面談に加え、年度末に保育責任者と管理責任者による三者面談を実施。 職員一人ひとりの目標を共有し、できるサポートを責任者で考え、働く意欲の向上に繋がるよう配慮した。 保育の仕事に従事する者としての責任や自覚をもつことの重要性についても意識し、職員がそれに気づき学ぶ意欲がもてるような働きかけを行った。
年齢別・クラス運営	クラス内での月齢の違ひによる活動内容にも意識し、時と場合によっては他クラスと過ごすなど、より個々に合った保育を展開できるよう配慮した。 月齢だけではなく個々の成長発達にあわせて活動内容や活動場所、誰と活動するのかなども担任同士で話し合って決めていくことができた。 他クラスの状況を積極的に知ろうとする意識をもつことや、何かの時にクラス関係なく声を出すことなどについては今後の課題である。
保健・安全指導	引き続きCO2測定器の値に基づいて、適宜室内の換気を実施。 胃腸炎流行を機会とし、これまでも実施していた玩具や室内の消毒の徹底、消毒液濃度の場所別の使い分けや見直しを実施。また実践形式の嘔吐処理研修を開催し職員全員の感染予防に対する意識や技術の向上を目指した。
園内外研究・研修	職員それぞれの段階に合った研修を受講できるように調整をした。 園内研修は、その時期のタイムリーな内容を選択し職員全員に対して実施。 また、防災の日に毎年実施の防災・引き取り訓練は本年も実施。震災による停電想定の中で、実際に防災食を食べたりと半日を過ごした。同日に外部委託での乳幼児応急手当研修を実施し、緊急時の対応について学ぶ機会を設けた。
情報について	各帳簿を部門ごとに分けてナンバリングし、引き続き管理を行うことで、書類の管理がしやすく、次年度への意向もスムーズに行えた。個人情報管理については引き続き施錠できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。
施設・設備	「らびっと広場」の運用が本格的に始まった。砂場や滑り台などの固定遊具で子どもは喜んであそんでいた。 使用途中で改良した方が良い点などがあつた場合はその都度話し合い、より快適な環境となるよう取り組むことができた。 施設も8年目となり、様々な場所で手入れや環境設備の見直しなどが必要になってきている。 状況を把握しながら、優先順位をつけて取り組むことができた。
施設間交流連携	連携園との交流を再開、新規開始した。いづみ幼稚園所有の畑でのさつまいも堀り(1、2歳児クラスのみ)、いづみ幼稚園運動会参加(2歳児クラスのみ)、2歳児交流(いづみ幼稚園にて)については今年度も実施することができた。新たに泉の郷保育園が連携園となり、早速泉の郷保育園運動会(2歳児クラスのみ)に参加し、3月には2歳児交流(泉の郷保育園にて)も行うことができた。連携園3園との年度末の引継ぎも継続して行った。姉妹園である戸塚おもいやり保育園との交流も開始し、2歳児交流(らびっと広場にて)、職員研修を行った。
家庭・地域との連帯	子どもの様子を保護者と共有することができるよう、話す時間を確保できるような人事配置に引き続き努めた。個人面談は9月に1度開催、今年度も十分な時間を確保して行った(定められた時間以上に話したいことがある方は事前にお知らせいただき、更に時間を確保した)。保護者への様々な伝達や連絡手段として、内容等により電話・書面・メールを使い分けて行った。また早めにかかりやすく案内をするよう努めた。地域との交流はまだ実施できていないが、今後秋祭りを地域に開放した行事にすべく前進していきたい。
情報発信	園だより、給食だよりを温かみのある手書きで引き続き運用している。内容についても、読みやすく、その時期に合ったものとなるように配慮した。写真販売については子どもの様々な表情や様子が伝わるように、多数アップロードしたため見やすいように項目を細かく分ける工夫をした。
衛生管理について	基本的な手洗いや点検表を用いて各自自覚をもって行動した。また調理室内のこまめな掃除を行い、常に清潔な状態を保つことができた。 異物の混入等が起きた場合も、ヒヤリハットや事故報告書に記録することで全体周知し、衛生管理を新しく見直すことにもつながった。 調理着のチェックを保育もまじえて確認することで毎日意識して過ごすことができた。
調理内容について	全員が同じ調理ができるよう新しい職員にも時間をかけて研修することができ、改善点があれば調理室会議で意見交換し実現した。 お誕生日メニュー等複雑なものに関しては書類に残しイメージを事前に合わせることで完成度の高いものを提供することができ、調理技術の向上にもつながった。新しいメニューを取り入れることで気付く改善点もあり来度に活かしていきたい。
食育について	毎日の子ども、クラスの状況を実際に自分の目で確認し成長発達にあった食育を計画的に進めることができた。 例年おこなっている食育に加え新しい取り組みもできたが、来年度はもっと保育と連携をしながら行っていきたい。 また担当者1名だけの関りが多かったため給食室として子ども達に関わる機会を増やしていく。
健康管理について	子ども達の身長・体重という数値に加え日々の保育園での生活や連絡ノートから汲み取れる情報を交えて支援を行うことができた。 栄養バランスに加え残食が少なくなるよう、振り返りを行い、子どもたちの栄養が満たされるよう努力を行った。 職員の健康管理については反省すべき点もあつたが具体的な対策を新たに決定することができた。来年度に活かしていく。
事務管理について	個人情報の管理については引き続き施錠できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。 書類をナンバリングして管理することで業務の効率化を図ることが出来ている。